

[成果情報名]飼料用米など非主食用向け水稻多収新品種「岩南 29 号」の育成

[要約]「岩南 29 号」は、熟期が「ひとめぼれ」並の“晩生の中”に属する飼料用米など非主食用として利用できる多収品種である。耐倒伏性は“強”、障害型耐冷性は“強”、いもち病圃場抵抗性は葉いもち、穂いもちとも“やや強”である。

[キーワード]イネ、岩南 29 号、非主食用、多収品種、飼料用米

[担当]岩手農研・技術部・作物研究室

[代表連絡先]電話 0197-68-4418

[区分]東北農業・作物（稲育種）

[分類]技術・参考

-----  
[背景・ねらい]

いわてオリジナル水稻品種開発事業では、低コスト生産や飼料稲への利用を視野に入れた多収品種の育成に取り組んでいる。また、近年、遊休農地の増加、輸入家畜飼料や原油の価格高騰を背景に、飼料用米品種やバイオエタノール用品種の要望が高まっている。しかし、既存の多収品種は耐冷性が不十分であるため、岩手県の気象条件に適した多収品種が求められている。

そこで、耐冷性が強く、飼料用米など多用途に利用できる多収品種の育成をめざす。

[成果の内容・特徴]

1. 「岩南 29 号」は中晩生の多収品種の育成を目標として、1994 年に「江 70（チヨホナミ/山形 37 号）」を母、「ふくひびき」を父として人工交配を行い、選抜・固定を図ってきたものである。
2. 出穂期、成熟期とも「ひとめぼれ」並で、育成地では“晩生の中”に属する（表 1）。
3. 稈長は「ひとめぼれ」並、穂長は「ひとめぼれ」よりやや長く、穂数は「ひとめぼれ」より少なく、草型は“偏穂重型”に属する。押し倒し抵抗値が「ひとめぼれ」より大きく、耐倒伏性は「ひとめぼれ」より強い“強”である（表 1、表 2）。
4. いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pia*”と推定され、圃場抵抗性は葉いもち、穂いもちとも“やや強”である。障害型耐冷性は「ふくひびき」より強い“強”、穂発芽性は“やや難”である（表 1）。
5. 収量性は「ひとめぼれ」に比べて明らかに優り、多収品種である「ふくひびき」「コガネヒカリ」より玄米収量が多い（表 3）。玄米千粒重は「ひとめぼれ」より大きく、「ふくひびき」並である（表 1）。
6. 玄米品質は「ひとめぼれ」より劣る（表 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 適応地帯は、岩手県中南部の北上川流域標高 200m 以下地帯である。
2. 飼料用米、稲発酵粗飼料用、バイオエタノール用、米粉用などへの利用が考えられる。
3. いもち病圃場抵抗性は“やや強”であるが、基本防除に努めること。
4. 一般主食用品種に比べて、品質、食味は劣る。

[具体的データ]

表1 特性の一覧

系統名	岩南29号		交配組合せ		江70／ふくひびき (江70:チヨホナミ/山形37号)		
特性	長所:多収である。 障害型耐冷性、耐倒伏性が強い。						
調査地	岩手県農業研究センター(北上市)					奨決現地(県内5ヶ所)	
試験名	育成地		奨励品種決定調査			奨励品種決定調査	
調査年次	2001～2005,2008年		2004,2005年			2004,2005年	
品種名	岩南29号 ひとめぼれ		岩南29号 ひとめぼれ ふくひびき			岩南29号 ひとめぼれ	
早晩性	晩生の中		晩生の中		中生の中	晩生の中	
草型	偏穂重型		偏穂数型		穂重型	偏穂重型	
出穂期 (月日)	8月8日	8月9日	8月3日	8月4日	8月2日	8月4日	8月6日
成熟期 (月日)	9月28日	9月29日	9月20日	9月22日	9月17日	9月18日	9月18日
稈長 (cm)	82	80	84	85	74	82	84
穂長 (cm)	19.4	18.7	19.6	19.1	19.0	18.1	17.8
穂数 (本/m <sup>2</sup> )	398	480	355	451	375	345	463
玄米収量 (kg/a)	67.2	50.6	73.1	64.5	67.8	60.3	53.0
対標準比 (%)	133	(100)	113	(100)	105	114	(100)
粗玄米重 (kg/a)	69.9	57.2	74.5	66.3	69.5	-	-
玄米千粒重 (g)	24.4	22.6	24.6	22.8	24.4	24.5	22.8
玄米品質(検査等級)	4.3	2.8	4.5	1.8	5.7	4.2	1.8

注1)いずれも標準施肥区の結果。

10a当り窒素施用量は、育成地は2001～2005年が基肥5kg+幼穂形成期追肥2kg、2006～2008年が基肥6kg+幼穂形成期追肥2kg、奨励品種決定調査は基肥6kg+幼穂形成期追肥2kg、ただし奨決現地は現地慣行。

2)玄米収量の篩目は1.9mmを使用。

3)検査等級は1等上(1),1等中(2),1等下(3)～3等上(7),3等中(8),3等下(9),規格外(10)とした。

表2 押し倒し抵抗値(育成地、2004,2005年)

品種名	株当たり押し倒し抵抗値		1穂当たり押し倒し抵抗値	
	(N/株±標準偏差)		(N/本±標準偏差)	
	2004年	2005年	2004年	2005年
岩南29号	14.5±0.7	11.4±1.6	1.22±0.03	0.75±0.02
ひとめぼれ	10.9±0.5	8.3±0.9	0.73±0.04	0.52±0.02
ふくひびき	12.4±1.5	9.8±1.4	1.11±0.02	0.72±0.03

注1)地際から15cmの高さで、45度の角度まで押し倒したときの応力を測定。

表3 多収品種との収量比較(奨励品種決定調査、2006,2007年)

区	品種名	出穂期 (月/日)	全重 (kg/a)	粗玄米重 (kg/a)	精玄米重 (kg/a)	標準比 (%)
標肥	岩南29号	8/3	177	74.5	73.1	108
	ふくひびき	8/2	160	69.5	67.8	100
	コガネヒカリ	8/3	163	68.8	67.5	(100)
多肥	岩南29号	8/3	179	77.1	75.2	109
	ふくひびき	8/2	175	73.7	71.9	104
	コガネヒカリ	8/3	178	70.6	69.2	(100)

注1)10a当り窒素施肥量

標肥:基肥6kg+幼穂形成期2kg、多肥:基肥9kg+幼穂形成期2kg

2)全重は風乾重。

3)精玄米重は1.9mm篩い。

[その他]

研究課題名:多様な消費者ニーズ・生産基盤等に対応した商品性の高い、いわてオリジナル品種の開発

予算区分:県単

研究期間:1994～2008年度

研究担当者:菅原浩視、阿部陽、高草木雅人、佐々木力、仲條眞介、木内豊、高橋真博、照井儀明、中野央子、佐藤喬、田村和彦、扇良明、尾形茂、小田中浩哉、神山芳典